

3年ぶりのハムフェア開催



イベントコーナー横 J-050

マイクロ波、コンピュータ、機械関連などのマニアックな話題から子供向け縁日まで、様々な物事に通じたメンバーがゆる〜く集うSAGAMI-NETです。

日汗工業新聞

発行所 SAGAMI-NET 広報室 神奈川県相模原市中央区 http://www.sagami-net.jp/

真夏でも暖かい ミートテック 究極の素肌素材

新型コロナウイルス終息が見えない中 ついにハムフェア開催が再開!

SAGAMI-NET(代表 井 J E I U Y P)は、コロナ禍の中、3年ぶりの開催となるハムフェア2022への開催を決定した。7月に行われた抽選会により、出展ブースはイベントコーナー近くの「J-050」に決定された。

人の密集など、感染拡大の原因となる状況を極力作らないようにするため、SAGAMIの顔ともいえる緑日や物品販売は断念し、展示のみでの出展となる。「現状での最善策としてご理解いただきたい」と代表談。

今年の展示内容は?

今年(令和4年)の開催ということもあり、各メンバーとも張り切った展示を、と意欲を込めていた。現実には様々な要因で活動を制限されていた状況から、控えめな内容の展示となってしまうことをあらかじめお断りしなければならない。

JFITPR熊野翁氏は、おなじみの面白マイクロ波機器展示に、湧水に悩まされながらも自力でタワーを建ててしまおうという経験をまとめた資料展示(講話?)をする予定である。

これは、元々工事業者に依頼していたものの、なかなか話が進展しなかつた結果、マイクロ波機器の自作同様、面白い苦労話を聞くことができるだろう。

JGUA 笹野氏は、得意のコンピュータ分野との関連が深い、DMR方式の通信に関する展示を予定している。

DMR方式自体は、少数のユーザーにより何年も前から使用されているものの、日本の技術を取ったアマチュア無線機は無く、2022年時点においても保証認定が必須であるなど、マニアの域を出ない方式となっている。

またDMR方式で多く使われる運用形態に必要な「ホットスポット」についても、コンピュータやインターネットに関する知識が必要なこと、何となく動いていてとりあえず使えている、というケースもあるようだ。

笹野氏はこの点についてマニアレベルをも超える知識を持っている。

感染防止対策を確実に

新型コロナウイルスの感染防止対策として個人でできることといえば、適切なマスク着用による飛沫の拡散や吸入の抑制、うがいや手洗い、こまめな消毒など、基本的な行動を確実に実行することである。

マスク着用は、ウイルスを拡散させたり吸い込む量を抑制するだけでなく、体への出入り口に対する効果があり、ワクチン接種は、感染してしまつた時の重症化を防ぐ、あるいはウイルスを吸い込んだ際に感染しにくくする等の効果が期待できることから、両方の対策を取ること大きな効果を発揮する。

しかし、ウイルスの感染力を軽減したり、「軽傷」の意味を取り違えている、自分は感染しない(していない)と過信してハイリスクな行動を取る方が一定数いるのが現実である。

ハムフェア会場においては、**展示物その他に触れる際は、その前後に必ず手指を消毒する。**・マスクを外したり、口鼻から近づいた状態でしゃべらない。

などの基本的な感染対策をしっかりと取り、自分だけではなく参加されている全員が、楽しい思い出を持ち帰り、普段どおりの生活に戻れるよう心がけて頂きたい。

SAGAMI-NET JARL登録クラブ 11-4-60

神奈川県を中心に、インターネットなどのニューメディアの利用を主として活動するアマチュア無線団体で、無線に関するハードウェアやソフトウェアの実験・開発・製作・運用を行っています。

近年は、メンバー各自の環境に変化はあるものの、JARL神奈川県支部主催イベントへの参加や協力、主要活動拠点のある相模原市他のアマチュア無線クラブとの交流や特別局運用への協力など、様々な活動に積極的に参加・協力しています。

SAGAMI-NET所属社団局

JM1YOV SAGAMI-NETやまゆりクラブ
 JM1YOW SAGAMI-NET県央大和 (一時休止中)
 JM1YPA SAGAMI-NET相模原AMC

インターネット・ホームページ
<http://www.sagami-net.jp/>

mixiコミュニティ http://mixi.jp/view_community.pl?id=1246110
 Twitter アカウント @sagaminet 併せてご覧ください!

電波を出さなくても遊べるアマチュア無線

コールサインを手にしたら電波を出さなくては...と考えがちですが、実は、電波を出さなくても活動できる領域もあるのです。

FT8等デジタルモード

DX局と交信し、LoTWに連携してログを残し(国内局との交信も盛んですが)、アワード取得等に利用する、というのはありがちな話ですが、単にFT8等の信号を受信して、PKReporter.infoに受信記録を流すだけでもコールサインは必要だったりします。

それで何かを得られる訳ではありませんが、「自分が送信した電波がどこまで飛んだか」を知るための手助けができることは、アマチュア無線の目的を考えると非常に有用なものではないでしょうか。

Peanut等のVoIP

よくあるVoIPのシステムでは、無線機(ホットスポット)間はアマチュア無線の電波を使用し、ホットスポットから先がインターネットに載っています。

Peanutのシステムでは、無線機(ホットスポット)の部分がアンドロイド搭載スマートフォンやウインドウズ搭載パソコンとなり、アマチュア無線の電波を使わずにVoIPへ参加可能です。

とはいえ、知らない相手方が同じPeanutの動作するスマートフォンやパソコンではなく無線機である可能性もあるため、自分がコールサインを持っていないと参加することができません。

オープンソース活動に貢献

これは流石に極端な例かもしれませんが、GitHub等のオープンソースソフトウェアに利用されるサイトで自身のIDをコールサインとすることで、アマチュア無線向けのソフトウェア以外のプロジェクトでも「この人はアマチュア無線家か?」であれば、多少なりともそれに関連する知識があるのでは?」や、「日本のコールサインなら、中の人は日本人なんだな」など、自己紹介をせずとも多少の理解は示してもらえませんか。(個人の感想です)

折角世界でただ一つのコールサインを手にするのですから、電波を出す以外の利用価値の一つや二つ、見い出してみても罰は当たらないでしょう。

ここに書いてある以外にも有効な活用方法でお勧めなものがありましたら、ぜひとも発表してみてください。(JGUA)

アマチュア無線は、それを楽しむ人の数、あるいはそれより多くの楽しみ方がある趣味で、また無線技術を研究する手段でもある。

引越したら今まで使っていたアンテナを立てられなくなった、建物の工事でアンテナを撤去しなければならなくなった、などの場合でも、UAA局の書かれたような「別の楽しみ方」を見つけないと、今までにない発見をする、ことができるかもしれない。

これからアマチュア無線を始めようとしている方も、既に楽しんでいる方も、考え方として参考にしてみてもどうだろうか。(編)



お祭りなど大規模イベント会場で実施される電子工作体験は残念ながら再開までもうしばらく時間が掛かりそうである。

相模原周辺の無線関係イベント

10月10日(月・祝) アウトドアミーティング(八王子みなみ野)
 JARL東京都支部と神奈川県支部合同開催によるアウトドアミーティング、片倉つどいの森公園で開催予定です。

11月20日(日) かながわハムの集い(JR相模原)
 相模原市立産業会館(相模原市役所近く)で開催予定、メーカー展示やクラブ出展、お楽しみ抽選会など、話題もりたくさんです。

新型コロナ感染症は、終息が見え始めて来たと思うと再拡大してしまうという波が繰り返されているもの、ワクチン接種が進んだり、適切なマスク着用など、感染拡大防止策が比較的多くの方の間で浸透していることもあり、ようやく地域の無線イベントも制約つきながら再開されてきている。

今年の秋以降は、JARLの東京都支部と神奈川県支部の合同開催となるアウトドア・ミーティングや、かながわハムの集いの開催が予定されている。

アウトドア・ミーティングでは、展示だけではなくジャンク市などの物品販売も行われる予定のため、掘り出し物を探したい方は要チェックである。

地域無線イベントも制約つきながら徐々に開催再開される動きもあり!

かながわハムの集いは、旧称支部大会であることから、講演会、コンテスト表彰、お楽しみ抽選会、無線機やアンテナメーカーによる製品展示、クラブ等の展示・活動紹介などの定番内容のみならず、「アマチュア無線って何?」などの疑問に答えるコーナーなど、幅広い層に向けてアマチュア無線を紹介する場となっている。

「アマチュア無線は昔やってたんだけど」という人は最近の事情を生で知るきっかけになったり、長く続けている人も、始めてからまだ日が浅い人も、新しい知識や技術を発見できる場となっているので、コロナ感染防止対策を徹底したうえで、ぜひ会場に足を運んでみて頂きたい。


友好クラブを勝手に紹介 秋葉原無線部 JS1YCP

秋葉原無線部は、秋葉原が好きな人たちが自由に集まって活動するクラブです。

2013年のアキバ大好き祭り記念局「8J1AKIBA」のメンバーで立ち上げ、電気街世代と萌え文化世代の壁を破り、秋葉原電気街が世界一楽しい街であり続けるための振興と発展を目標として、ハムフェアやラジオライブペディ出展、CQ誌への寄稿、同人誌即売会「秋コレ」での公開運用、そしておそらく世界初(?)のメイドカフェ「メイリッシュ」公式でアマチュア無線イベントを開催するなど、そこそこ活発に活動しています。

「秋葉原アクティビティアワード」にもぜひ挑戦してみてくださいね。

Web : <http://cqakiba.tokyo>
 Twitter : @cqakiba
 discord サーバへのリンクは、Webサイトなどからどうぞ。



「プリントパック」でQ S Lカードを作ってみた

J S I R C Y



T u r b o H A M L O Gからこの用紙サンプルに実際に印刷してみて、にじみの具合、乾きやすさなど、手元のプリンタ・インクとの相性を確認してみました。問題なさそうです。

(一般的な染料インクプリンタを使用) 注文画面で用紙サイズ・種類を選ぶと、片面・両面や色数・印刷枚数別に価格が表示されます。

今回は T u r b o H A M L O Gを使って印刷するので、片面4色(レポート面は印刷無し)、ミラーコート紙を選びました。

手書きと兼用など、レポート面の印刷も必要な場合は、両面のメニューを選ぶことになります。



アップロード後、画面右下の「このデータをチェックします。」をクリックすると印刷仕上げ見本が出てきますので、大丈夫だと思ったら、「このデータを印刷する」をクリックします。

「Web入稿が完了しました」の表示が出ればアップロードは完了で、その後、到着予定日などの確認メールが来ます。

自分の場合は7月29日に注文、8月6日に到着予定となり、納期は約8日でした。

初めて利用する場合は冒頭に書いたように2000円分のクーポンが付いてきますので、お試しで印刷されてみてはいかがでしょうか。

このサービスは100枚という比較的少量から印刷することができますので、絵柄の違うQ S Lカードを複数種類用意して発行されている方や、写真面も含めてご自身のプリンタで印刷されている方は、コスト削減になるかもしれませんよ？

去年あたりにプリントパックでQ S Lカードの印刷が出来ると広告が出ていたことを思い出して、お試しで注文してみました。

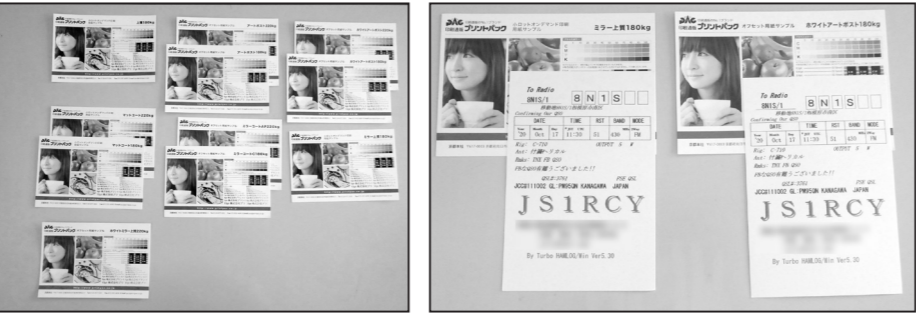
最安は白黒片面刷り100枚、税・送料込みで950円ですが、ユーザー登録をすると、なんと2000円分のポイントがもらえます。

このポイントは印刷代としても使えるので、メニューによっては実質無料でお試的にQ S Lカードを作れてしまうことになります。

印刷に必要な入稿用データは、A d o b e社製品のように専門的なソフトウェアだけでなく、大半のご家庭でパソコンに入っていると思われるオフィスソフトであるワード、エクセル、パワーポイントからも作成できますので、大変使いやすいサービスと言えます。

紙質は上質紙からホワイトミラー紙まで、厚みを含めると11種類から選ぶことができ、用紙サイズも「はがきサイズ」と「国際サイズ」から選ぶことができます。

またユーザー登録をすると用紙サンプルをもらうことができ、実際に注文する前に紙質を確認できます。



納期	7営業日以内発送						
	色数	片面スミ1色	両面スミ1色	片面4色	表4色 裏スミ1色 (K)	表4色 裏1色 (C・M)	両面4色
表							
裏					or		
100部	(1,790円 税込) 928円(税抜)	(1,840円 税込) 1,219円(税抜)	(1,889円 税込) 1,191円(税抜)	(1,979円 税込) 1,300円(税抜)	(2,190円 税込) 1,373円(税抜)	(2,230円 税込) 1,373円(税抜)	
200部	(1,938円 税込) 1,155円(税抜)	(1,990円 税込) 1,319円(税抜)	(2,066円 税込) 1,291円(税抜)	(2,450円 税込) 1,619円(税抜)	(2,650円 税込) 1,855円(税抜)	(2,850円 税込) 1,855円(税抜)	

注文が完了してからマイページへ移動すると、データ入稿をするためのボタンが表示されるようになります。

データ入稿画面の「アップロードデータをここにドロップ!」と書かれた場所へワードなどで作成してPDF形式で保存したファイルをドラック&ドロップしてアップロードします。



あたりまえ?しかし実は… デジタルモード運用の注意点 wsjt-x/jtdx 編

J M I Y O V 運用部

コールサインに付加する「/数字」、実は結構…

国内交信でおなじみの「コールサイン/数字」形式、たとえば「J M I Y O V / 1」などを自局コールサインに設定して移動運用している局も多いと思いますが、実はトラブルの元になってしまう事があります。類似設定をしている移動局や、長いコールサインの局などと交信できない場合があるのです。こうなると、自分だけでなく、交信したいと思っている相手にもストレスとなってしまいます。

少ないデータ量で交信(通信)するためのソフトウェア仕様による制約のため、コールサインの後に「/数字」などを付ける設定はなるべく避け、必要な場合はC Qの合間や交信後に、自由文で運用地情報ほか補助的な情報を送信する工夫をおすすめします。

国内交信ならば、交信終了の73を送った後で、「Y O V / 1 C 1 1 1 0 0 2」などを手動で送る操作です。(最大13文字) ※「/数字」などは、コールサインやその一部ではありません。交信できるはずなのにできない時は、一度確認してみてください。

できるだけ綺麗な電波を送信しよう

諸説ありますが、「A L Cが動作しない範囲」に音声レベルを調整し、かつ可能な限り小さい送信出力で運用するのが理想です。

また、無線機制御の設定を一工夫するだけで音声帯域内での高調波を抑制することもできますので、可能な限り綺麗な電波を送信するような設定をしましょう。A L Cの動作とA L Cメーターの振れ具合の関係も含め、各自の無線機に応じて研究してみてください。

PSKReporter を活用しよう

受信レポートを pskreporter.info にアップロードする設定を行うと、電波を送信した局は、自分の電波がどこまで飛んで行ったのか、pskreporter.info のサイトで確認できるようになります。(自分以外の局の電波の受け・飛びも確認できます)

一人でも多くの方がこの設定を有効にして情報を共有することで、交信が成立しない場合でも、自分が送信した電波がどこまで飛んで行ったのか、自分はどこからの電波を受信できているのかを視覚的に確認でき、設備や時間帯、周波数選定などの工夫に役立ちます。

グリッドロケータは6桁設定が無難

自局のグリッドロケータを4桁で設定すると、たとえばQ M 0 5などの場合、上述したスポッターサービス上では自局が海上にいるように表示されてしまいます。逆に8桁では不必要にピンポイントになるため、6桁で設定するとよいのではないのでしょうか。なお、6桁や8桁で設定した場合でも、交信時に交換するデータとしては自動的に先頭4桁のみが使われます。

マイクロ波の過疎地・山梨からQ R V

J F I T P R

S A G A M I - N E T町田研究所は、高田馬場への移転に伴い、アンテナ・タワー等を町田から撤去した。

その後、山梨県北杜市の八ヶ岳山麓に、穴掘りから始めて自力で建柱し、標高1000m地点からH F ~ 5 G H z帯までQ R Vできる環境を構築した。

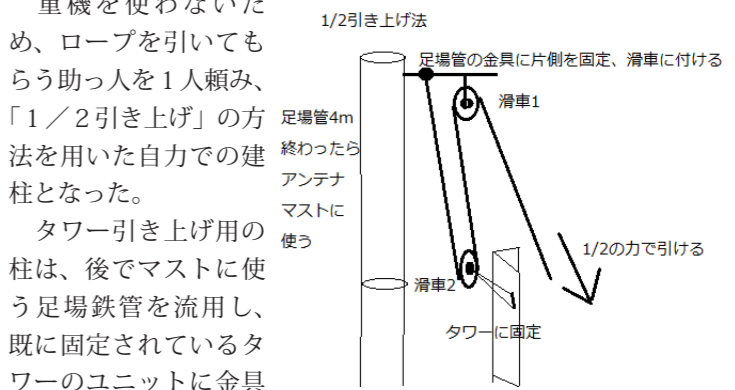
高田馬場もH F ~ 2 4 G H z帯までのアンテナシステムを二階屋上のルーフタワー上に設置しているが、週末は当人がほとんど八ヶ岳山麓に出かけてしまうため休眠化している。

一方、八ヶ岳山麓からは、滞在中は富士山ビームで5 G H zビーコン(5759.08MHz)を送信しており、首都圏の数局と2WAY・FMでのQ S Oに成功した。

レインスカッターが発生した日には、首都圏の室内でもこの八ヶ岳山麓ビーコンがR S 5 9で入感した記録もある。

その後に設置した430MHz帯では、首都圏各局の他、特に静岡方面が強く入感しているのだが、5 G H z帯では静岡方面の相手局が見当たらない。

この他、H Fでも秋のシーズンにD Pに50W出力の7 M H z帯でヨーロッパや南米とC WでQ S



類や針金等を用いて固定、この柱の上部と引き上げるタワーのユニットにそれぞれ定滑車・同滑車にあたる滑車を取り付けてロープを通すことにより、ユニット重量の半分の力で引き上げることができるようにした。

この方法の利点は、下に引けば上方に上がるので力を入れやすく、また構造が単純なため間違いにくいことである。

滑車を増やせば更に力が要らなくなるが、構造が複雑になってしまうことから、今回はこの「1/2引き上げ」を採用した。